

文系なんですけど、薬剤師になれますか？

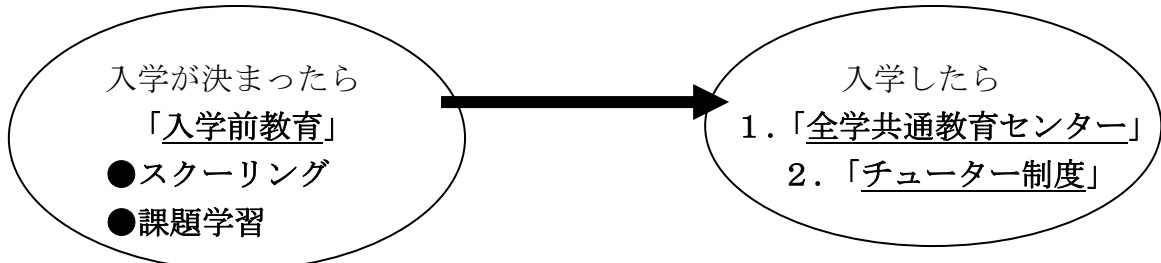
## 徳島文理大学・香川薬学部 学生サクセスストーリー

薬学の勉強はいろいろな分野にわたっています。たとえば高校の理数系科目では、化学・生物・物理そして数学のすべてが必要になります。しかし、現実には高校ですべての理科の科目を取ることは不可能ですし、また文系のクラスや専門高校で勉強していて、薬剤師を目指そうとした場合、薬学部での勉強について行けるのか？不安な点が多いと思います。

徳島文理大学・香川薬学部では、文系からでも志があれば薬剤師になれるよう、勉強に対するいろいろなサポートを行っています。そうしたサポートを利用すれば、薬剤師国家試験に合格できる十分なシステムができて上がっています。

次に示す5人の学生さんのサクセスストーリーを読んでみてください。あなたも彼らのように香川薬学部で勉強して、薬剤師さんになる夢をかなえるために、挑戦してみませんか？

香川薬学部での成功のヒケツ！



入学前教育はここ2、3年で大変、充実してきています。例えば秋に入学が決まれば、すぐに大学から高校の理数系の教科書や問題集が送られてきて、そこから通信教育が始まります。そして入学までの間に、バッチリ勉強することができます。次に出てくる5人のうちの最初の4人の学生さんたちの話から、入学までの間に高校時代の復習と未履修科目の習得に励んでもらうことが、いかに効果的かがわかったのも、現在はこの入学前教育をととても充実させてきたわけです。そして一番最後に出てくる「2年生 E 子さん」のときには、入学予定者のときから、E さんも大学教員も必死になって入学前教育



に取り組みました。みなさんの不安が少しでも解決できるように！そして高校生から大学生にスムーズに意識が変われるように！われわれ大学教員は最大限の努力を惜しみません。

さて、本学の全学共通教育センターとは、大学の中にあって、数学を中心に、大学1年生の勉強全般について無料で補習してくれるところです。もちろん授業担当の教員に質問することは可能です。しかし、授業を受けて「何がわからないかもわからない」場合は、すぐに全学共通教育センターを訪ねてください。個人授業の形態に近いですし、何時間でも本当に親身の指導が受けられます。そうして、何がわからないかを明確にしてから、次のステップへ進みましょう。

チューターとは高校でいう担任の先生のようなものです。ただし1人の先生に各学年2・3人と極めて少ない人数が割り振られますので、勉強のこと、人間関係、さまざまな相談に乗ってくれます。必要なら学校のカウンセラーも紹介してくれます。どの先生方もとてもフレンドリーに対応していただきます。

それでは現在、大学で学んでいる5人の学生さんの話を聞いてみましょう。



5年生のA子さん



5年生のB男くん



6年生のC子さん



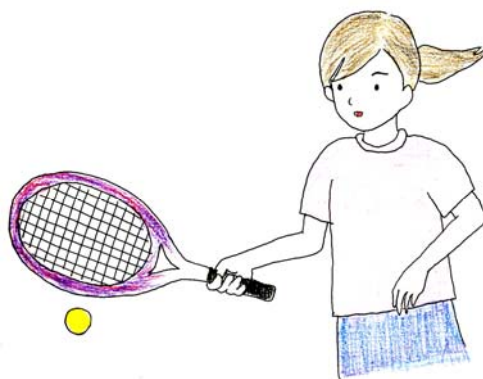
4年生のD子さん



2年生のE子さん



大学教員



## ケース1：5年生のA子さんの場合



**A子さんからの聞き取り：** 私立高校の普通科を卒業。数学はⅠとⅡの一部だけを勉強した。理科は理科総合と生物Ⅰを勉強し、化学Ⅰは一部だけを勉強した。すなわち実質的には「文系の高校生」だった。身近にいたお医者さんや保健師の先生に、「薬剤師の道に進んだら？」とすすめられたのが、香川薬学部へ進学するきっかけだった。ただ、高校時代の担任の先生からは、「薬学は理系学部だから、入ってもついていけないし、しんどいよ」と言われていた。



**A子さんの話：** 入学試験は指定校制推薦制度を利用しました。当時は残念ながら入学前教育のシステムがなかったので、入学が決まってからすぐに自力で薬学部の大学1年生に必要な勉強を開始しました。入学後は、**全学共通教育センター**に何回も通いました。そこで勉強のコツをつかみ、勉強の仕方を身につけました。悩みごとは**チューター**の先生と相談し、いろいろとアドバイスをいただけたのが良かったです。2年生前期には実験が始まり、午前中は普通の授業、午後は実験という、薬学部で学ぶパターンを一通り経験しました。そうすることで、2年生の夏の時点では、薬学部でどのように勉強していけば良いのかがわかり、自信ができました。

**どうすれば夢はかなう？** いま5年生になって、このA子さんの成績はトップクラス（上位5%）である。高校生や高校の先生は、薬学は勉強のハードルが高いと思っている。しかしA子さんは言う。「そのハードルを乗り越えられるかどうか、すなわち勉強するかしないかは、あくまでも自分自身の問題です。遊びたい誘惑に負けずに勉強すれば、高校の先生に『あなたには無理だ』と言われた私でさえも、十分薬学部でやっていけています」とのことである。「香川薬学部には、そのハードルを乗り越えさせてくれるシステムが整っています」と、A子さんは言う。



## ケース2：5年生のB男くんの場合



**B男くんからの聞き取り：** 県立の専門高校を卒業後、1年間ある会社で働いていたが、どうも自分にはその職が合わないと感じ、「ひとの役に立つ職業」に就きたいと思い、薬剤師を目指すことにした。予備校にも通って、一般受験で香川薬学部に入學してきた。高校時代、数学はⅠとⅡの一部だけを、理科は理科総合だけを勉強した。入学当初、B男くんは薬学部の授業についていけるのかとても不安で、授業が進むたびに何度かチューターのところに相談に訪れ、チューターはいろいろと助言をしたり、研究室に備えてあった高校数学の参考書を貸し出したりした。個人教授も提案したが、B男君は自力でやれるところまでやってみたいとのことだった。



**B男くんの話：** 入学してすぐに、「香川薬学部は高校で習うレベルのこともすべて基礎からていねいに教えてくれるんだ」ということに気がつきました。すなわち、高校のときにどの科目を履修してきたかは、あまり問題ではないことがわかったわけです。また、わからないところがあれば、全学共通教育センターで補習してもらうことができました。1年後期の数学では本試験で不合格になり、再試験になって悔しい思いをしましたが、2年前期の終了時には、薬学部で生きていく自信がつかしました。

**どうすれば夢はかなう？** B男くんはその後、再試験になった科目はなく、成績はいま、この学年のトップを争っている。どうすればそんなに勉強ができるようになるのか？と聞いたところ、「授業中にわかろうと努力することです」という答えが返ってきた。1年間社会人をやったおかげで、勉強がどれだけ大事かがわかり、高校時代にあまり勉強しなかったことを後悔し、今、勉強ができるありがたみをかみしめて、集中しているとのことだ。B男くんが続けて言うには「知識はやる気があれば身につきます」とのことであった。

**チューターの思い：** チューターはもう良好な成績を挙げられるようになった時点での（2年生の前期）、B男くんの面接のことを印象深く記憶している。「もう、入学時の不安はなくなったんじゃない？」との質問に対し、B男くんの回答は「どの教科でも努力すれば、どうにか試験に合格することはできると思う」とのものであった。チューターはこの控えめな言い方の中に、この間の努力に裏打ちされたB男くんの自信の現れを感じ取った。進路に迷っている高校生は多いと思う。B男くんはそんな高校生たちに「ひとの役に立つ薬剤師」について紹介したいとさえ思っている。

### ケース3：6年生のC子さんの場合



**C子さんからの聞き取り：** 県立高校の普通科を卒業。理系のクラスだったので、数学はⅢC、化学はⅡ、生物もⅠは学んできた。正確に言えば学んだ「はず」であった。薬学に興味をもった理由は、「高校時代にインターンシップで製薬企業を見学に行った経験からです。クスリに興味がありました」ということだった。本当ならば地元にある薬学部に進学したかった。しかしそこは不合格になり、気が進まないながら、公募制推薦で合格を出してくれた香川薬学部に入學した。高校の先生からは「あなたは薬学部ではついていけない。入学させてもらっても、入ってからが大変」と言われ続けたらしい。



**C子さんの話：** 合格が決まってから入学までの間、自力で、薬学で大事な化学の勉強をしました（このときはまだ入学前教育がなかった）。入学後、化学はどうかなったものの、物理がさっぱりわかりませんでした。そのときに助けたものが二つありました。一つは全学共通教育センターで、ここでは物理を親身になって教えてくれました。もう一つはチューターの先生の研究室の先輩たちで、分からない科目を親切に教えてくれ、試験の傾向も教えてくれました。今は私が、同じように後輩たちを集めて勉強を教えています。

**どうすれば夢はかなう？** やはり他の学生さんと同じく、C子さんも2年生の前期終了時には勉強に自信がもてるようになった。C子さんも現在の成績はトップクラス（上位5%）である。1年生のときから居残り勉強をして頑張ってきた。「わからないと思うと、わからなくなりますよ」とC子さんは言う。しつこく勉強していくことが大切なようだが、勉強ができるようになるには、「努力することと同時に、各授業科目のつながりを見つけることです」とも、C子さんは言う。そのためにチューター制度を上手く利用し、先輩たちと話をすることが大事だと言うのが後輩への助言である。薬剤師の仕事は医師や看護師に比べて目立たない。「なぜ薬剤師がひとの役に立っているのかを、できるだけ世の中に知らせたいです」と、C子さんは思っている。



#### ケース4：4年生のD子さんの場合



**D子さんからの聞き取り：** 私立高校の普通科をわけあって退学した。大検では数学Iと理科総合で受験資格を取った。つまり完全に文系の生徒であった。薬剤師を目指している理由は、今は亡き母親が薬剤師だったからだ。一般入試で受験し、数学と化学で合格することはできた。



**D子さんの話：** 入学後に確かに勉強で苦しみました。救いになったのはチューター制度と、友だちだったと思います。「薬剤師になるとか言うよりも前に、とにかく留年しないで上の学年に上がりたい」という思いで、必死に勉強に励みました。授業に集中するようにし、授業以外では、グループの友だちどうしで教えあいました。高校で履修しておらず、特に苦手な科目は全学共通教育センターにも通いました。学習のこと以外でも、悩みはチューターの先生に聞いてもらいました。

**どうすれば夢はかなう？** D子さんは1年生の終了時には、もう薬学部で生きていく自信がついていた。学校に来るのが楽しくて仕方がないようだ。「友人はもちろんです、たくさんの先生とも交流をもちたいです」とD子さんは望んでいる。現在の成績は極めて良好だ。D子さんが中退した高校の担任の先生にお目にかかったことがある。D子さんの高校時代の担任に、この記事を書いている香川薬学部の教員はお目にかかったことがある。高校時代、いったい彼女に何が起こったのかはわからない。しかし、D子さん自身もよくこの高校時代の担任を訪ねるらしい。「彼女は元気にやっていますよ。極めて優秀なお子さんですよ」と告げると、担任の先生は涙を浮かべて喜んでおられた。



## ケース5：2年生のE子さんの場合



**E子さんからの聞き取り：** 県立高校の普通科の出身。数学はⅠとⅡの途中まで、理科は理科総合と、少し生物を取った程度。つまり完全に文系の生徒であった。AO入試で受験し、合格後すぐに入学前教育を始めた。大学から届いた参考書、プリントを使い、その関連の問題を解いて行きながら、必死にくらいついて行った。また入学前の時点から、香川キャンパスまでこまめに通い、全学共通教育センターで数学の勉強を重ねた。つまり、高校3年生のときに、本学の学生と同じように勉強することができた。



**E子さんの話：** 医療に携わる仕事をしたかったので薬学部を志望しました。ただ、高校時代に履修した理科、数学では大学での勉強についていけるかどうか、とても不安で、進路については気持ちが揺れ動きました。悩んで色々調べているうちに、入学前から学習のサポートをしてくれる大学として香川薬学部の存在を知り、薬剤師を目指す気持ちを新たに、入学前教育に取り組んでみることにしました。

**どうすれば夢はかなう？** 入学直後は、センター試験で合格してきた学生との差を感じて、あせることもあった。しかし全学共通教育センターで補習を受けたり、チューターの研究室にいる先輩たちからいろいろな勉強を教わることもでき、次第に授業の流れがつかめるようになった。現在は高校で学ぶ程度の理数科目の内容については不安感は少なくなって来たが、1年生の教養レベルと、2年生になってからの専門レベルとの差を感じている。しかし友だちどうして教えあうなどして、十分に良い成績を収めるようになっている。



**E子さんの話：** 勉強に集中することが大事です。そして自分なりの、自分にあった勉強方法を早く見つけることが必要です。そして、入学後すぐに先輩や同級生との交友関係を広げておくと、いろいろと相談に乗ってもらえるので良いと思います。あと1年して3年生になれば、後期からは各研究室に配属されて、研究できますよね。そのときをすっごく楽しみにしています。それから、香川薬学部に入ってから、薬剤師って、高校の時に思っていたよりも、世の中にいろいろな活躍の場があることを知りました。それが具体的にどのようなものであるかを体験してみたいです。



ご覧いただいてどのように感じましたか？文系でも十分に薬学部の勉強についていけることが、おわかりいただけたと思います。

もちろん、バリバリ理系の生徒さんにも満足していただけるよう、さまざまな授業が用意されています。とくに、化学は有機化学の分野、生物は身体のことや神経の分野、物理は運動や熱、原子の分野、そして数学は指数、対数、微分、積分などが、薬学部での学習に必要であり、これらをさらに深く勉強していただくことが可能です。

一方、紹介した先輩たちの話から、勉強には先輩や同級生との交流も大切なことが理解できたことと思います。徳島文理大学香川キャンパスでは平成23年度から、入学後の早い段階で、新入生と教員、在校生が参加する「宿泊セミナー」を行っています。そして、先輩たちや同級生との交流を深める試みを始めました。その宿泊セミナーの直後に行われた新入生アンケートの結果からは、「仲間ができた！楽しかった！」、「先輩たちとの交流では、さまざまな意見を聞くことができて良かった」という感想があり、大変好評でした。

さあ、一緒に香川薬学部で勉強して、知識が豊富なだけでなく、人間味のある信頼のおける薬剤師を目指しましょう！

〒769-2193 香川県さぬき市志度 1314-1  
徳島文理大学・香川薬学部  
広報委員会（担当 伊藤悦朗）  
連絡先 電話 087-894-5111 内線 6604  
eito@kph.bunri-u.ac.jp